

# 経営成績及び財政状態

## 1. 当第1四半期の概況（平成16年4月1日～平成16年6月30日）

当第1四半期における経営環境は、国内では、民間設備投資や輸出、生産が好調に推移すると共に、雇用環境にも改善が見られるなど、着実な回復が進みました。海外においては、米国経済が順調に拡大し、欧州、アジア諸国の景気も堅調な推移を辿りました。

こうした中、当社では、液晶カラーテレビやカメラ付き携帯電話などの特長商品の拡充に加え、システム液晶をはじめとする独自液晶やCCD・CMOSイメージャ、太陽電池などの特長デバイスの事業拡大に取り組みました。

その結果、連結業績については、売上高は前年同期比17.5%増の6,012億円、営業利益は22.1%増の353億円、経常利益は30.1%増の335億円、四半期純利益は39.3%増の195億円となりました。

キャッシュ・フローの状況については、営業活動による資金の増加は312億円、投資活動による資金の減少は267億円、また、財務活動の結果取得した資金は10億円となり、その結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ61億円増加し、2,837億円となりました。

各部門別の状況は、概ね次のとおりです。

**A V・通信機器部門**では、液晶カラーテレビが大型モデルを中心に伸長すると共に、カメラ付き携帯電話も好調に推移し、売上高は、前年同期比13.9%増の2,155億円となりました。

**電化機器部門**では、継続的な価格下落の影響などにより、売上高は、前年同期比5.8%減の543億円となりました。

**情報機器部門**では、液晶カラーモニターやデジタル複合機が堅調に推移し、売上高は、前年同期比8.0%増の1,000億円となりました。

**I C部門**では、カメラ付き携帯電話用を中心としたCCD・CMOSイメージャが伸長し、売上高は、前年同期比5.3%増の399億円となりました。

**液晶部門**では、システム液晶などの高付加価値液晶が好調に推移し、売上高は、前年同期比53.2%増の1,314億円となりました。

**その他電子部品等部門**では、主力の太陽電池が好調に推移し、売上高は、前年同期比23.7%増の599億円となりました。

## 2. 通期の連結業績見通し

前期決算発表時（平成16年4月27日）に公表いたしました当期業績予想の修正はありません。

### 【ご参考】

売上高	2兆5,300億円	（前年度比 112.1%）
営業利益	1,500億円	（前年度比 123.3%）
経常利益	1,400億円	（前年度比 125.4%）
当期純利益	750億円	（前年度比 123.5%）

上記の業績見通しは、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は見通しと大きく異なることがあります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- |                                   |                           |
|-----------------------------------|---------------------------|
| ・ 主要市場（欧米及びアジア・日本）の政治及び経済状況の著しい変化 |                           |
| ・ 主要市場における製品需給の急激な変動              | ・ 為替相場の大幅な変動（特に、ドル・ユーロ相場） |
| ・ 資本市場での相場の大幅な変動                  | ・ 急激な技術変化 など              |